2・20国会行動

金パラ問題で議員要請

清水議員（共産）「問題解消へ全力で支援」

清水議員（左）

金パラ高騰による「逆ザヤ」がこれ以上続けば、医院経営は成り立たなくなる――。金パラ問題が深刻化していることを受け、協会は2月20日に保団連の中央要請行動に参加し、大阪選出の国会議員に逆ザヤ状態の解消を訴えた。段野和茂理事と事務局が参加した。

段野理事は、署名開始2日間で300筆を超える声が集まった「金パラ『逆ザヤ』の即時解消を求める」会員署名をもとに、金パラ「逆ザヤ」の現状を紹介。「30㌘あたり3万円を超える逆ザヤになっている。これ以上は耐えられない」などと訴えた。

清水忠史衆院議員（共産）との懇談では、署名で集まった会員の声や保団連が実施した金パラ逆ザヤシミュレーターの結果を見て「年明けからの国際情勢で金の価格が上がっているのは知っていたが、金パラがここまで高騰しているのは知らなかった。これは大問題だ」とし、問題解消のために全力でサポートすることを約束した。

保険で良い歯科治療を求める請願署名192筆を手渡した。その他持参した「みんなでストップ患者負担増」署名305筆は山下芳生参院議員（共産）の秘書に託した。

【要請議員一覧】

面談〈共産〉清水忠史

秘書対応〈立憲〉長尾秀樹、辻元清美、尾辻かな子、村上史好、森山浩行〈国民〉平野博文、浜野喜史、矢田わか子〈共産〉山下芳生、大門実紀史〈N国〉丸山穂高

2月生涯研

口腔粘膜疾患の診断法

がんや白斑など特徴を解説

臨床学術部は「日常臨床で遭遇する口腔粘膜疾患の診かた～口腔がんを見逃さないためにも」をテーマに2月16日、生涯研修講座を開き、72人が参加した。

太田耕司氏（広島大学大学院医系科学研究科口腔健康科学講座教授）が講師を務め、日常臨床でみかける口腔粘膜疾患の診かたや、口腔がんの診かたと現在の治療の考え方について解説した。

口腔粘膜疾患を診断するにあたっての基礎知識・キーワードについて述べ、▽口腔粘膜に水疱を形成する病変▽口腔粘膜の白斑を主徴とする病変▽色素沈着を主徴とする病変▽口腔粘膜にアフタや潰瘍を形成する病変▽日常でみられる舌の病変――について、長年の臨床経験で得た多くの写真を提示。それぞれの特徴を説明した。

口腔粘膜の病変の特徴について解説する太田氏＝2月16日、M＆Dホール

また、タレントの堀ちえみさんの実例を踏まえながら、最新の口腔がん治療のトレンドを解説した。その他、口腔粘膜診の重要性、難治性口内炎のリスク、レーザーを用いた粘膜への治療リスク、そして何よりも可及的に早期での専門医への紹介を訴えた。

（港区・平尾清司）

施設基準研修会に231人

か強診などの届出に対応

社保研究部は、3月末日までに再度の歯援診やか強診の届出を行う会員らを対象に「歯初診（注1）・外来環・歯援診・か強診に係る施設基準研修会」を2月16日に開き、231人が参加した（写真）。

足立了平氏（ときわ病院歯科口腔外科部長）が講師を務め、院内感染防止対策や緊急時対応、医療安全対策、認知症を含む高齢者の特性、認知症対応、口腔機能管理を含む歯科疾患の継続管理、在宅医療・介護などについて解説した。

訪問診療でQOL向上

堺・高石・和泉地区

堺・高石・和泉地区は2月15日、サンスクエア堺で「症例から考える訪問診療」をテーマに講習会を開いた。坂口勝氏（堺市開業）を講師に13人が参加した。

坂口氏は「歯科医師が訪問診療に入ることで患者のQOLを高めることができる」と強調。患者対応の基本や摂食嚥下障害への対応などを解説した。「ユマニチュード」を紹介し、認知症患者への応対法を説明した。坂口氏は参加者の悩みに丁寧にこたえ、「多くの歯科医師に訪問診療に取り組んでほしい」と訴えた。

今さら聞けない

「大阪都」構想

Q&A

コスト高の半人前の自治体

Q「特別区」って何？

A 財源も権限も乏しい〝半人前〟の自治体です。

維新の会が大阪市を廃止・分割して新たにつくる「特別区」は、現在の行政区とは全く異なります。行政区は単なるエリアの区割りですが、特別区は市町村と同じく自治体の一つになります。

現在の大阪市の体制では議会も教育委員会も一つで済みますが、「特別区」になれば、特別区ごとに区議会議員と区長を選挙で選び、区議会や教育委員会などをつくり、区政を運営しなければなりません。

1カ所に集約している市政運営を4つの区政に分割するため、経費の増加は避けられません。大阪市議会では、現在の公務員数では足りず、新たに600人以上増やす必要性が指摘されています。試算では人件費と議会運営費などで年間約59億円も増加することが明らかになっています。

一方で、特別区になれば固定資産税や法人市民税などの税収は府に移り、街づくり・都市計画の権限はなくなります。財源も権限も奪われ、「半人前の自治体」になってしまいます。

維新の会は「大阪都」構想によるコスト削減や経済効果を強調してきました。しかし、特別区をつくることで逆にコストが高になり、「地域のことは地域で決める」という当たり前の自治体運営さえ困難になることが浮き彫りになっています。

（つづく）

咀嚼玩味⑱

おせち騒動

大阪大学歯学研究科教授
天野敦雄

諸兄姉は新年早々の大ニュース「ふるさと納税・おせち届かず」事件をご存じだろうか？茨城県筑西市のふるさと納税返礼品のおせちが、元旦に届けられなかった一大事である。計2183件のおせちが年末30日から31日午前中に全国に届けられる手筈であった。しかし、手間暇かかる上級品358件は間に合わなかったのだ。それがどうしたって？なんと358分の1件が天野家だったのだ。

その昔、わが妻は出会った頃よりシャイな性格だった（その奥ゆかしさが気に入ったんだが）。当然、来客は好きじゃない。結婚以来30余年、家に客を迎えたのは僅かに3回（2回は私の親兄弟。もう1回は私の教室員夫妻2組）。天野家は長きにわたって鎖国家庭であった。

ところが天野家にペリーがやってきた。昨年12月に長男が結婚し、元旦には夫婦で年賀に来るという。開国マッタなしである。これまでの正月とは違い、それなりのこしらえがいる。正月料理のチラシに目を凝らす妻に、ANAふるさと納税HPを見せたのが騒動の始まりであった。

大晦日の21時、おせちは届かない。製造業者に何度か電話するが受話器が外されている。「諦めるな、元旦の朝に届くかも」と藁にすがりながら年を越した。翌朝6時に筑西市からのメールが届いた。「3時間前に業者から間に合わないと連絡がありました。すみません」と。妻の怒りと狼狽が目に浮かび、背筋が凍った。

かくして買い出し行脚の元旦が幕を開けた。成果は芳しくなく（そりゃ仕方ない）、手元には貧素な品ばかり。が、あに図らんや、我が家には埃を被った嫁入り道具・高級食器一式が眠っていた。初お目見えの盛り付け皿に貧祖さは薄められた。大晦日に気前よく買った大トロ寿司の色が一晩で変わっていたのは想定外だったが。

私は料理、貴方は話の相手、と妻から事前の役割分担。そして、ペリー到来。妻は落ち着いた様子で雑煮を作っている。よかった！心底安堵。役務遂行のため、とっておきのネタで客を笑かし続けた（頑張った！）。なのに客が帰った後、いい年をして喋り過ぎ、と叱られた。なんでやねん！である。

その後の顛末はというと、筑西市の代替え返礼品は元の1・5倍に増額。一方、製造業者は、数年来の経営不振に加えてこの騒動。10億円の負債を抱えて倒産した。合掌。